

第5章 リーダーシップ理論

本章では、リーダーシップ理論について説明する。リーダーシップに関しては、研究テーマとして取り上げる受験生が非常に多くなっている。著名な経営者やコンサルタントが自身の経験からリーダーシップ論を語っている書籍が多く出版され、多くの受験生が、これらを参考に研究計画書を作成している。こういった著名人の経験ベースのリーダーシップ論というのは、再現性に欠ける。再現性を求める研究においては、やはり経営理論としてのリーダーシップ論が求められている。そこで、ここでは研究計画書作成に役立ちそうなリーダーシップ理論について歴史を辿って説明することにする。

1 リーダーシップ理論の概観

リーダーシップとは、集団に目標達成を促すよう影響を与える能力である (Robbins、2005)。そして、この能力を備えた人をリーダーと呼ぶ。以下では、リーダーシップ理論を紹介するが、最初に、リーダーの行動に焦点を当てた「行動理論」を、次に、「リーダーシップのコンティンジェンシー理論」、「リーダーシップの代替性アプローチ」について説明する。そして、近年注目されている「変革（トランスフォーメーション）型リーダーシップ」、「シェアード・リーダーシップ」に関して説明する。